

会 記

I. 東北支部第 22 回大会

期日 昭和 44 年 8 月 18 日

場所 青森市浅虫東北大学臨海実験所

1. 深浦沿海産の興味あるヒドロゾア数種について
紺野一碩*・内田 一 (弘前大・理・生)
2. ビリンゴの large pit organ の微細構造
佐藤光雄・吉田幸子* (弘前大・理・生)
3. 有尾両生類等の頭型の数学的表現法について
山本 弘 (一関・修紅短大)
4. 金華山島のニホンジカの研究—シカに摘食された“ガマズミ”の生長型とその分布
伊藤健雄 (東北大・臨海)
5. 淡水産甲殻類プランクトンの分布—浅い池に於ける日周変化
庄司定克 (仙台大・体育)
6. アメマスの観察
関野哲雄 (青森県漁政課)
7. ヒガンフグとマフグの飼育
遊佐多津雄 (東北海区水産研)
8. ヒトデ卵の卵核胞の崩壊に対する蛋白合成系阻害剤の効果
平井越郎 (東北大・理・生)
9. 毛翅目一種の卵形成
松崎守夫 (福島大・教育・生)
10. 生殖細胞の分化過程におけるヒストン蛋白の変化について
板垣源太郎 (弘前大・医・解剖)
11. ウニ卵表の受精に関与する物質
長内健治 (岩手大・教育・生)
12. イトミズ卵の極細胞質の組織化学的研究
稲瀬正夫 (仙台・尚絅女学院短大)
13. プラナリヤ *Bdellocephala brunnea* の神経分泌について
手代木 渉 (弘前大・理・生)

II. 北海道支部第 20 回大会

昭和 44 年 8 月 23 日 (土) 午前 9 時 30 分より午後 5 時まで、札幌大学 (札幌市西岡) において行われた。参会者 65 名。19 題の一般講演があり、また午後の総会では支部の庶務会計報告、その他が行われた。一般講演の要旨は下記の如くである。

シロネズミ肝臓リソゾーム分画と電気泳動パターン

北村尚子 (北大・理・動物)

私達は今まで、雌雄のシロネズミの肝臓をはじめ約 10 種類の臓器をポリアクリルアミド電気泳動を

用いて acid phosphatase の heterogeneity 並びに数種の酵素阻害剤の isozyme pattern に対する影響を調べたが、更にリソゾームの機能を追求するために、今回著者は、Tappel グループが報告した方法、即ち蔗糖濃度勾配遠心法を用いて、比活性と電気泳動パターンを調べた。その結果、リソゾームの acid phosphatase の比活性は 5 倍に上昇した。このリソゾーム酵素の潜在性は精製の段階が進むにつれて上昇するものと思われる。電気泳動パターンは、9 本の acid phosphatase のパターンに分けられているが、リソゾーム分画は、この中の非常に活性が強く易動度の遅いパターンと比較的活性が強く易動度の速いパターンであることが分った。

トゲウオの染色体とアイソザイムパターン

村本淳一 (北大・理・染色体施設)

トゲウオ目中トゲウオ科に属する 2 属、イトヨ属とトミヨ属の魚類の近縁関係を染色体及び 2 種の酵素 (グルコース-6-リン酸脱水素酵素及びガラクトース-6-リン酸脱水素酵素) の泳動パターンにより考察した。イトヨ属に属し 2 亜種であるイトヨ及びハリヨでは体細胞の染色体数、染色体構成及び泳動パターンは同じであった。一方トミヨ属に属する 3 種トミヨ、イバラトミヨ、エゾトミヨでは、染色体数は上記 2 亜種と同じであったが、染色体構成は少し異なっていた。但し泳動パターンはトミヨはイトヨ、ハリヨにより近い関係を示した。上記の結果より、トミヨはイトヨ属により近く、イバラトミヨとエゾトミヨは非常に近い近縁関係にあると考察された。

ロバスター群 ショウジョウバエにおけるグルコース-6-リン酸脱水素酵素の泳動パターン

高橋 裕・金子明石 (北大・理・動物)

近年小進化の問題に関して種々のアイソザイムの研究が注目をあびてきている。演者らは性染色体に支配する遺伝子があるといわれるグルコース-6-リン酸脱水素酵素 (G6PD) のアイソザイムにより、ロバスター群 ショウジョウバエ (世界で 11 種、日本に 7 種) の各種間類縁関係を調査中である。今回は *Sordidula* (大沼系、札幌系) と *Pseudosordidula* (大沼系、日高山系) について得られた知見を紹介する。両種とも個体により多くのパターンの相異が